



平城宮役人にペルシヤ人－天平文化の国際性－

元玉川大学教職サポートルーム客員教授 峯岸 誠

平城宮役人にペルシヤ人 木簡に名前、国際性示す史料に

(日本経済新聞2016.10.6より)

奈良市の平城宮跡で出土した「天平神護元年」(765年)と記された木簡に、ペルシヤ人の役人とみられる「破斯清通」という名前があったことが5日、奈良文化財研究所の調査で分かった。(中略)国内の出土品でペルシヤ人を示す文字が確認されたのは初めて。外国人が来日した平城宮の国際性を示す史料となりそうだ。(後略)

天平文化は国際的な文化といわれます。その特徴を生徒に理解させるにはどうしたらよいでしょうか。新聞記事の伝える人名を手がかりに彼らが来日した経過ともたらした文化の特徴を考えさせましょう。

木簡(図1)の伝える「破斯清通」はどのようにして来日したのでしょうか。記事には736年に、遣唐使が連れ帰ったとあります。

この遣唐使は733年4月に派遣され、翌年4隻で帰路につき、3隻が帰国しました。そのなかに唐人やペルシヤ人らが乗船していました。

『続日本紀』には帰国した副使・中臣名代と唐人3人、ペルシヤ人は736年8月に聖武天皇に会ったことが記録されています。また、11月には帰国した人たちに位が授けられました。

そのなかに唐人や「波斯人李蜜翳」もふくまれていました。このころ来日した外国人としては754年の鑑真が著名です。しかし、それより20年近くも前に唐よりもはるかに遠いペルシヤから来日した外国人に位を授け、文物を取り入れるという開かれた朝廷の考えに着目をさせましょう。このように平城京は、外国人も役人と

して登用されるほどの国際都市でした。

ペルシヤは現在のイランです。『社会科 中学生の歴史』(以下、教科書)p.38「⑥東西を結ぶ交通」(図2)からシルクロードを通してイラン、長安、奈良の距離、地形などから旅行の大変さを生徒に確かめさせ、考えさせましょう。『中学校社会科地図』p.31~32も活用しましょう。

国際的な文化の特徴を確かめるために、教科書p.38「①螺钿紫檀五弦琵琶と②拡大図」を用います。資料のような五弦琵琶はインドで発生し、中国を経て日本に伝わり献納されました。現存する世界で唯一の五弦琵琶です。

ラクダの背上の人物は何人でしょうか。かかえている琵琶に注目しましょう。糸巻が4本の四弦琵琶で、ペルシヤ系とされます。そこでえがかれた人物はペルシヤ人ということになります。のちの時代の学習になりますが、教科書p.59⑨の琵琶法師がもっている琵琶は四弦です。

ペルシヤなど西アジアの各地から遣唐使によってもたらされた品々が東大寺境内の正倉院におさめられています。そこで正倉院は「シルクロードの終着駅」とよばれます。

文化の扱いは教科書などの資料の紹介にとどまりがちです。新聞などで入手できる最新の研究成果を用いることで授業に活気が出ると考えます。

※奈良文化財研究所提供



図1 木簡にみえる「破斯清通」※



図2 『社会科 中学生の歴史』 p.38